

家庭基礎

教科	家庭	単位数	2	学科・学年	工業科2年生 総合ビジネス科2年生
使用教科書	「新家庭基礎 主体的に人生をつくる」 (大修館書店)			副教材等	「生活ハンドブック」(第一学習社)

◇ 学習の到達目標 ◇

- ① 家族や生活の営みを人の一生とのかかわりのなかでとらえ、家族や家庭生活のあり方、子どもや高齢者の生活と福祉、生活の自立と健康のための衣食住、消費生活と環境などに関する基礎的・基本的な知識や技術を体験を通して身に付けます。
- ② 自分自身の生活を見直し、各自が生活課題を主体的に解決するとともに、男女が協力して家庭や地域の生活の充実向上を図ることができるよう能力と実践的な態度を育てます。

◇ 科目の特色 ◇

「家庭基礎」は家庭生活にかかわる基礎的・基本的な知識や技術を習得する科目です。体験的な学習を通して学ぶことにより、日常生活の場で活かす力を身に付けます。

◇ 学習の計画 ◇

月	単 元 名	主 な 学 習 活 動
4 6	第1章 人の一生と青年期の課題をみつめよう 第2章 家族・家庭と社会について考えよう 第3章 子どもと子育てについて知ろう	・自分らしい生き方について考える。 ・体験学習やVTRの視聴を通して、家族や家庭生活のあり方や乳幼児期の生活と福祉について理解する。
7 9	第4章 高齢者の生活と福祉について考えよう ホームプロジェクト(夏季休業) 第5章 共生社会をつくろう 第6章 経済生活を設計しよう	・体験学習やVTRの視聴を通して、高齢社会の現状と課題について考える。 ・ホームプロジェクトでは、各自の生活の中から課題を見だし、課題解決を目指して実践をする。 ・家庭経済や消費生活に関する基礎的知識を習得する。 【前期期末考査】
10 12	第7章 生涯の健康を見通した食生活をつくろう	・食物にかかわる実験や調理実習を通して、栄養、食品及び調理や食品衛生などに関する基礎的知識と技術を習得する。
1 3	第8章 健康で快適な衣生活をつくろう 第9章 安全で快適な住生活をつくろう	・実験・実習、調べ学習を通して、衣生活や住生活を快適に営むための基礎的な知識と技術を習得する。 【後期期末考査】

◇ 評価の観点・方法 ◇

評価は、次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	家庭や地域の生活に関心を持ち、意欲的に課題を解決しようとしているか。学習で得た知識と技術を生活の中で活用する姿勢があるか。
思考・判断・表現	家庭や地域の生活を見直し、課題を見つけ、その解決を目指してより良い方法を考えることができるか。
技 能	家庭や地域の生活に関する基礎的・基本的技術を身に付けることができたか。習得した技術を適切に活用することができるか。
知識・理解	各項目に関する基礎的・基本的知識を習得することができたか。

このため、具体的には次のものを対象とします。

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| ① 授業で活用するプリント | ② 学習の成果をまとめたプリントやレポート |
| ③ 製作物及び実習・実技の状況 | ④ ホームプロジェクトへの取り組み状況 |
| ④ 自己評価表 | ⑤ 定期考査 |

また1年間の評定は、前期・後期の年間を通して、上記の内容を総合的に判定して決定します。

◇ 担当者からのメッセージ ◇

家庭基礎の学習は、あなたの日々の生活の充実を図るとともに、将来の生活への希望を実現するための大きな力になります。より良い生活を目指して頑張りましょう。